

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	関東菊花競技大会開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	S4	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	関東菊花競技大会に補助金を支出している。また、関東菊花競技大会の開催支援（後援・協賛依頼、賞状下付申請・版徴求、チラシ・ポスターの配布、報告書作成、表彰式の開催支援）を行っている。 ※関東菊花競技大会は、晃陽会・佐野市主催の菊の競技大会であり、昭和4年の第1回大会以来一度も欠かすことなく開催されてきた歴史ある大会である。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	菊愛好家、市民、観光客に対して社会情操教育と文化の向上、菊花栽培の鑑賞と普及発展を促し、観光誘客を図る。	(3) 目標値		↓選択して下さい						後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11				
		菊花出品数	品	値が大きいほど良い	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200				
		来場者数	人	値が大きいほど良い	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000				

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	■市の活動内容 ・後援、協賛依頼（9月～10月） ・賞状下付申請（9月～11月） ・表彰式開催支援（11月） ■第97回関東菊花競技大会 1 開催期間 令和7年11月1日(土)～23日(日・祝) 2 場所 春日岡山宗惣寺境内 ※佐野厄よけ大師 3 表彰式 (1) 日時 令和7年11月23日(日・祝) (2) 会場 佐野市中央公民館	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		後援依頼事業者・団体数	回	9	9	9	9
		賞状依頼事業者・団体数	回	25	25	25	25
		事業費計	千円	1,000	1,000	1,000	1,000
		一般財源	千円	1,000	1,000	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	1,000	1,000
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

効果説明	・菊花出品数は対前年比200作品減少した。晃陽会会員の高齢化も要因の一つとして挙げられる。 ・来場者数は従来と同数程度だが、菊愛好家の高齢化により、年々減少傾向にある。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		菊花出品数	品	1,200	1,200	1,200	1,000	効果が下がった	×
		来場者数	人	30,000	30,000	30,000	25,000	効果が下がった	×

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標			
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	2指標
	効果が下がった指標数	2指標	目標未設定		
	指標全体	効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

菊愛好家の高齢化により、菊花の出品数が減少傾向にある。また、新規の菊愛好家の参加や、若年層への周知が課題であるとする。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	「本物の出会い 栃木」観光プロモーション参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般会計	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		「本物の出会い」栃木」観光プロモーション参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業 期間	開始年度	H10	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	「本物の出会い栃木」観光キャンペーン推進協議会に会員として負担金を支出し、協議会主催の会議、イベント、キャンペーンに参加している。 ※「本物の出会い栃木」観光キャンペーン推進協議会とは、栃木県への観光誘客の増大と定着及び観光産業の振興を図ることを目的として、県、市町村、観光関連団体等で構成している団体。平成26年より「やすらぎの栃木路」共同宣伝協議会から「本物の出会い栃木」観光キャンペーン推進協議会に名称変更した。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	関東地方及び近県住民（１都６県＋福島県＋新潟県）を対象として栃木県への観光客の増加を図り、佐野市への観光誘客に結びつける。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市の観光客入込数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	1 会議 ・R7.6.23 第1回企画会議 ・R7.7.31 第1回総会 ・R8.2.20 第2回企画会議 ・R8.3.18 第2回総会	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
	2 城跡を活用した分科会 ・R7.7.9 於：壬生町 ・R8.3.4於：矢板市	会議への出席回数	回	5	5	6	6
	3 観光宣伝活動 ・「本物の出会い栃木」トチギ・スィッチin有楽町駅前広場 R7.11.16 於：有楽町駅前広場 ・とちぎ冬旅フェスタ～春をさがしに～ R8.1.17 於：JR大宮駅 東西連絡通路スペースB・C	イベント等参加回数	回	7	6	4	3
	4 観光情報商談会（栃木県向け旅行商品造成や宣伝拡大のため、旅行会社やメディア等を対象とした商談会） R7.10.20 於：TODA HALL & CONFERENCE TOKYO						
		事業費計	千円	250	100	100	100
		一般財源	千円	250	100	100	100
		特定財源（国・県・他）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	観光入込客数が増加した。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	7,481	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	0指標	目標達成	達成	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標		未達成	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標					
	効果は変わらない指標数	0指標					
	効果が下がった指標数	0指標					
指標全体		効果が上がった	目標未設定	1指標			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・観光宣伝活動事業は9月にも東京ソラマチにおいて開催されたが、「第33回さの秀郷まつり」とブッキングしたため参加を見合わせた。 ・広域連携でのキャンペーンにより多く参加するとともに分科会事業にも参加し、戦略的に事業を推進することで成果の向上が見込まれる。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 観光誘客のターゲットや方針を同じくする自治体と連携し事業を実施する。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	さの新春うんめえもんまつり開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H28	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	さの新春うんめえもんまつり実行委員会に対し、運営費の一部を補助することにより、まつりを安定的・発展的に実施してもらう。 これにより市の魅力を広くPRし、観光誘客を促進するとともに、まちなかの活性化を図る。 実行委員会事務局⇒佐野商工会議所経営支援課 市関係課⇒観光推進課、産業政策課、広報ブランド推進課
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	(3) 目標値		↓選択して下さい						
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千回	値が大きいほど良い	190	195	200	200	200	
		来場者数	人	値が大きいほど良い	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	1 実行委員会 第1回 R7.10.6 第2回 R7.11.18 第3回 R7.12.16 第4回 R8.2.13	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
	2 第10回さの新春うんめえもんまつり	実行委員会開催回数	回	3	4	4	4
	(1) 開催日時 令和8年1月11日(日) 9:00～16:00	まつり開催回数	回	1	1	1	1
	(2) 場所 佐野商工会議所、万町駐車場、佐野駅前交流プラザばるぼーと、佐野市役所、佐野東石美術館						
	(3) 内容 ①物販 佐野らーめん、いもフライ、耳うどん、佐野黒から揚げ、地元蔵元の日本酒試飲、地元の特産品等 ②催し さのまる出演、VR体験、エア遊具、クワケット体験、フリーピアノ、アイドルステージ、クラシックカー展示等	事業費計	千円	200	200	200	200
(4) 来場者数 15,000人		一般財源	千円	200	200	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円			200	200
		(うち受益者負担)	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (R7と過去3年平均の指標値増減)	・まつりを開催したことにより本市の魅力を知ってもらうことでHPアクセス数は微増した。 ・強風の影響により、来場者数は前年を下回った。	(4) 事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			佐野市観光協会ホームページアクセス数	千回	165	219	174	175	効果が下がった	×
			来場者数	人	10,000	20,000	20,000	15,000	効果が下がった	×

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	2指標
	効果が下がった指標数	2指標	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・継続的なイベントの実施が必要である。 ・第10回においては、佐野青年会議所会員及び佐野日本大学短期大学学生がスタッフに加わったことで、運営体制の強化につながった。 ・開催当日午前から強風（10m/s）に見舞われ、飲食ブースを早々に縮小したほか、イベント自体も開催時間を短縮する対応をとった。強風（5m/s以上）が見込まれる場合に開催を判断するためのガイドライン策定が必要である。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ボランティアスタッフ等を起用し、市民と一体となった祭り運営を行うことにより、成果向上及びコスト削減につながる。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	さの秀郷まつり開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H5	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	東国における武芸の祖として武士たちに崇められた弓術の達人・藤原秀郷を称えて開催される「さの秀郷まつり」を支援することにより、観光誘客を図る。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民の郷土愛醸成並びに市外からの観光誘客 (補助金対象団体) さの秀郷まつり運営委員会
-------------------------	---

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
まつり来観者	人	値が大きいほど良い	170,000	170,000	170,000	170,000	170,000

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	①開催日	令和7年9月13日(土)、14日(日)
	②開催場所	市役所周辺
	③内容	市民総おどり、みこし・おはやし巡行、ステージイベント 他
	④来場者	約17万人 (13日(土) 80,000人 14日(日) 90,000人)
	(市の活動) 運営委員会に補助金を交付する。 (事業費の内訳) 7,300千円 (運営委員会の活動) 検討委員会、運営委員会、実行委員会の開催。 (実行委員会の活動) 協賛依頼、各種申請、広報宣伝、会場設営、当日の各種イベント運営、会場清掃、片付け等の実施。	

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
会議開催回数	回	8	10	10	10
現場作業	回	0	60	60	60
事業費計	千円	0	7,000	7,300	7,300
一般財源	千円	0	0	0	0
特定財源(国・県・他)	千円		7,000	7,300	7,300
(うち受益者負担)	千円				

（3）活動による効果

効果説明	多くの来観者がにぎわいを見せると同時に観光誘客にも繋がった。
------	--------------------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
まつり来観者	人	0	80,000	160,000	170,000	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	0指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果が上がった
費用(R7とR6の事業費計増減)		費用の増減無し

効果		
	効果が上がった	効果は変わらない
目標達成	達成	1指標
	未達成	
	目標未設定	

※10万円以上の増減により判断

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

事務局に市民団体を入れる。 新規イベントの開催、既存イベントのブラッシュアップ。 他祭り実行委員の実行部隊との協働。 協賛してもらうための新たなアイデア。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

- ☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）
- ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）
- ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討
- ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討
- ☐ その他の検討
- ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
事務局に市民団体を入れる。

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H17	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議へ会員として負担金支出。総会や担当者会議への参加を通して各種観光誘客事業を実施。 ＊両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議とは両毛地域への観光誘客促進を目的として、東武鉄道、両毛7市（佐野市、足利市、館林市、太田市、伊勢崎市、桐生市、みどり市）により構成している団体である。
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	東武鉄道利用者、沿線住民を対象とし、両毛地域及び佐野市のPR強化。東武鉄道利用観光客の増。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		冊子作成部数	部	値が大きいほど良い	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000
		イベント時パンフ配布数（佐野市分）	枚	値が大きいほど良い	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	（1）ふらっと両毛パンフレット・ポスターの作成配布（秋冬版、春夏版） （2）観光キャンペーン開催（池袋駅、北千住駅、新越谷駅） （3）観光ポスターの駅・車両広告掲出 （4）両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議の開催 （5）誘客施策ワーキンググループ会議の開催	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議回数	回	5	5	5	5
		イベント回数	回	3	3	3	3
		冊子等校正		30	30	30	30
		事業費計	千円	800	800	800	800
		一般財源	千円	800	800	800	800
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	観光キャンペーンの実施により、首都圏近郊においてパンフレットを配布したことにより、入込数の増加につながるなど成果があった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		冊子作成部数	部	85,000	85,000	85,000	85,000	効果は変わらない	○
		イベント時パンフ配布数（佐野市分）	枚	1,250	1,500	3,000	4,000	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	1指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

紙媒体のパンフレットの作成について見直す必要がある。 7市の負担金が全額パンフレットの作成につき込まれているが、その費用対効果を今一度検証するべきである。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☒ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 負担金の使用用途の検討。
---	--------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野コミュニケーションセンター運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		佐野コミュニケーションセンター運営事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野プレミアム・アウトレット内に設置された当センターを運営するため、「佐野コミュニケーションセンター管理・運営協議会」に参画することにより、来場者へ佐野市の観光情報・地場産品・特産品を紹介し、来場者の利便性向上及び佐野市の観光と産業の振興を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野プレミアム・アウトレット来場者、佐野コミュニケーションセンター来場者に佐野市をPRし、まちなかへの回遊性を向上させる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		来場者数	人	値が大きいほど良い	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000
		パンフレット設置数	枚	値が大きいほど良い	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	1 佐野コミュニケーションセンター定期賃貸借契約締結 ■ 契約期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日 ■ 賃貸人：三菱地所・サイモン(株) ■ 使用料：1,782,000円 2 「佐野コミュニケーションセンター管理・運営協議会」 (1) 総会開催 令和7年5月13日(火) (2) 案内業務等委託契約締結 ■ 契約期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日 ■ 委託業者：(株)アビック佐野支店 ■ 委託料：5,821,750円 (3) 事業内容 ・専属スタッフによる観光案内 ・商品展示、パンフレット設置、ポスター掲示、H P 管理 ・地場産品、特産物の紹介 ・アウトレット内でのイベント開催	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		事業者利用件数	件	86	95	89	92
		キャンペーン開催件数	回	0	2	0	0
		事業費計	千円	6,380	6,441	6,135	6,159
		一般財源	千円	6,380	6,441	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	6,135	6,159
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

効果説明	佐野プレミアムアウトレット内でパンフレット等で佐野市をPRすることにより、市内への回遊推進に努めた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		来場者数	人	49,622	57,782	59,155	54,477	効果が下がった	×
		パンフレット設置数	枚	23,418	24,046	18,261	21,257	効果が下がった	×

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成 達成 未達成 目標未設定			2指標
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	2指標				
	指標全体	効果が下がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・人件費の高騰により、令和6年度から案内業務等委託契約の委託料が約50万円増額となり、厳しい運営を強いられている。 ・こうした中、令和7年度当初に試算した結果、赤字決算となる公算が強いため、総会において負担金を従前の35万円へ値上げしたい旨お願ひし、了承された。更に、利用料を従前の年額6,000円から7,200円に値上する対応を行うとともに、新規利用者の獲得に努めた。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☒ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☒ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ・団体にのみ負担を強いるわけにも行かないため、本市においても令和8年度予算においては、対令和7年度比100万円増の500万円を計上した。 ・佐野プレミアム・アウトレットから、コミュニケーションセンター内での物販を検討できないかとの打診があった。 ・人件費高騰による案内業務等委託料が値上がりする中、物販も含め、観光協会に案内業務を委託することは合理的と考えられるので、継続して検討することが望ましい。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	栃木県観光物産協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		栃木県観光物産協会参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H19	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	県内の観光事業者や自治体で組織され、栃木県内の観光情報の収集・提供やPR事業を行っている栃木県観光物産協会に対し、会員として負担金を支出し、会議やイベントに参加するとともに、本市の観光情報の発信を行っている。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	栃木県観光物産協会に加入の上、同協会と連携し、佐野市の観光PRを図ることにより観光誘客の推進を図るとともに、宿泊の増加に繋げる。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市の観光客入込数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000
		広域での連携事業数	事業	値が大きいほど良い	18	18	18	19	20

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	1 情報発信 ・協会が発行する観光情報誌への情報提供。 ・県物産協会HP「とちぎ旅ネット」に記事投稿。 2 観光宣伝 協会が主催する観光キャラバンに参加した。 ・R7.7.18 観光キャラバン（T I C東京） ・R7.9.20 豊洲場外マルシェ（メブクス豊洲） ・R8.1.10～11 栃木県フェア（イオンレイクタウン／越谷市） ・R8.1.22 栃木物産展 (明治安田グイレッジアトリウム／丸の内)	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議等への出席回数	回	0	1	1	1
		情報提供回数	回	12	12	12	12
		加盟団体	団体	369	368	368	360
		事業費計	千円	30	30	30	30
		一般財源	千円	30	30	30	30
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	観光情報誌への情報提供やHPへの記事投稿、観光宣伝活動への参加により、本市への観光誘客が図られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	7,481	効果が上がった	×
		広域での連携事業数	事業	13	15	15	15	効果が上がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果が上がった	効果が変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	2指標				
	効果が上がった指標数	2指標				
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標達成	達成	未達成	2指標
			目標未設定			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・「とちぎ旅ネット」や「VISIT TOCHIGI」等の観光情報サイトの有効活用を図る。
・広域連携によるキャンペーンにより多く参加することで、戦略的に成果の向上が見込まれるので、日程的に都合がつく活動には可能な限り参加する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	観光キャラバン事業	実施計画事業or一般事業	施計画事	市長公約①	3-⑤	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課				7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係					1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等	事業科目	4		義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H10	実施方法	一部委託
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり						
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						
					終了年度		事業分類	その他市民に対する事業	

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	観光協会や民間企業等と協力して観光キャラバン隊を編成し、観光誘客向上のため、市外でのセールスを行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	全国の人々を対象として本市への観光誘客を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		佐野市観光協会ホームページアクセス件数	千件	値が大きいほど良い	450	460	470	480	500
		観光客入込数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	7/24 両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議 新越谷キャン 7/24 両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議 新越谷キャン 8/15 みどり市連携 草木湖まつり 1/10～11 とちぎフェア（越谷レイクタウン） 2/11～17 SANO city 観光PR ほか14件 合計33日間実施	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		観光キャラバン回数	回	26	30	29	33
		事業費計	千円	200	200	200	200
		一般財源	千円	200	200	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円			200	200
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	観光キャラバンを通して、本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊につながった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		佐野市観光協会ホームページアクセス件数	千件	165	219	174	175	効果が下がった	×
		観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	7,482	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	1指標		1指標	1指標
	指標全体	効果は変わらない	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し		※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

ターゲットを踏まえたPR場所の選定。 観光協会による物販の他、プラスアルファの取り組みとして何をしていくか。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☒ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 対象に合致した新規キャンペーンの実施及びPR方法の検討。
--	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	観光事業者との連携強化事業	実施計画事業or一般事業	施計画事	市長公約①	3-⑤	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業 期間	開始年度 H19 終了年度	実施方法	一部委託	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり						
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						
							事業分類	その他市民に対する事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	・観光誘客における観光事業者との連携において、佐野プレミアム・アウトレット内での観光PR事業を展開することにより、市内各所の観光スポットへの誘客及び回遊性を高める。また、観光ツアー造成の働きかけを行う。 ※（一社）佐野市観光協会に業務委託。 ・観光スポットにおける夜間ライトアップを通じて市民に本市の観光資源の良さを再認識していただくとともに、ナイトタイムエコノミー推進の観点から、市外からの観光客の市内滞在時間の延長を図り、経済効果及び交流人口の増加を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	・本市の魅力を広くPRするため、近隣自治体を含めた観光関係団体と連携したPRイベントや各種ツアーを企画することにより、観光誘客の増加を図る。 ・観光スポットのライトアップを展開することで、観光客の市内滞在時間の延長を図り、宿泊客数の増加に繋げる。
-------------------------	--

（3）目標値

		↓選択して下さい		後期計画				
効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
観光協会企画ツアー利用者総数	人	値が大きいほど良い	130	140	150	200	250	
さのあかり来場者総数	人	値が大きいほど良い	10,000	10,500	11,000	11,500	12,000	
市の観光宿泊客数	人	値が大きいほど良い	70,000	73,000	75,000	78,000	80,000	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	1 佐野プレミアム・アウトレット連携事業業務委託 ・観光協会に業務委託の上、佐野プレミアム・アウトレットにて「佐野まるとマルシェ」を実施し、本市の特産品販売のほか、観光パンフレットを配布しながら、観光情報を発信した。 【実施月】5月、6月、10月、11月、12月、1月、2月 2 観光スポットライトアップ事業（さのあかり） ・実行委員会に補助金を交付し、観光スポットにおいて夜間ライトアップ等を実施した。 (1) 人間国宝田村耕一美術館…11月 延べ5日間 ※来場者数：4,205人 (2) 唐沢山城跡・唐澤山神社…11月延べ5日間 ※来場者数：4,212人

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
観光PR回数	回	7	9	8	7
打ち合わせ回数	回	10	10	10	10
ライティングを実施した観光スポット数	箇所	0	2	2	2
事業費計	千円	300	5,261	5,800	5,800
一般財源	千円	0	0	0	0
特定財源（国・県・他）	千円	300	5,261	5,800	5,800
（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	・人間国宝田村耕一美術館における開催初日(11月8日)に報道機関の取材が入り、後日新聞掲載されたほか、SNS等でも情報が拡散した結果、両会場とも前回は大きく上回る来場者数を得られた。
------	---

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
観光協会企画ツアー利用者総数	人	64	173	430	328	効果が上がった	○
さのあかり来場者総数	人	0	7,994	6,996	8,417	効果が上がった	×
市の観光宿泊客数	人	56,943	64,290	63,648	67,239	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	2指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	3指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果が上がった
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果			
		効果が上がった	効果は変わらない
目標達成	達成	1指標	
	未達成	2指標	
目標未設定			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・さのあかりにおける来場者がライトアップ会場以外への回遊及び市内宿泊に繋がるような方策とその分析手段の検討が必要。 ・さのあかり来場者が駐車場に入れば、会場周辺の道路で渋滞が発生したため、駐車場の確保が今後の課題である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	・来場者を対象としたアンケートを実施したが、滞在時間の延長や宿泊について、延長等の定義が曖昧であったため、具体的な成果を測れるよう設問の再検討を行うとともに、食事や買い物に対する消費額等、具体的な経済効果も確認するため、アンケート内容の見直しを行う。

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	どまんなかフェスタ佐野開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		どまんなかフェスタ佐野開催支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H20	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	どまんなかフェスタ佐野実行委員会に交付金を交付し、どまんなかフェスタ佐野の開催を支援している。 ※どまんなかフェスタ佐野実行委員会は、どまんなかフェスタ佐野開催のために関係団体、参加団体等により構成された組織。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	各団体活動の周知・活性化を促し、市民や観光客など来場されたお客様には地元の特産品・伝統文化に触れていただく機会とする。	(3) 目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		来場者数	人	値が大まかいほど良い	10,000	20,000	21,000	22,000	23,000
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千回	値が大まかいほど良い	190	195	200	200	200

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	1 実行委員会 令和7年5月26日(月)開催	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
	2 どまんなかフェスタ佐野2025	会議開催回数	回	1	1	1	1
	(1) 日時 令和7年11月2日(日)9:45～15:00	実行委員数	人	15	17	17	17
	(2) 会場 KONOIKEグリーンフィールド 多目的競技場	広報チラシ配布数	枚	46,000	46,000	46,000	47,000
	(3) 内容 各種団体及び企業等による展示、販売、実演等 ※第28回国際交流フェスティバルと同時開催	事業費計	千円	3,000	3,600	3,800	3,800
	(4) 実績 ①来場者数 20,000人	一般財源	千円	3,000	0	0	0
	②出展者数 66団体	特定財源（国・県・他）	千円	0	3,600	3,800	3,800
	③ステージ発表者 12団体	（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	令和6年度と同規模の開催となったが、当日は近隣自治体におけるイベントや、市内で開催された駅伝大会等ともブッキングしたことが影響し、来場者が減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		来場者数	人	20,000	25,000	22,000	20,000	効果が下がった	○
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千回	165	219	174	175	効果が下がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成		1指標
	効果が下がった指標数	2指標	未達成		1指標
	指標全体	効果が下がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

- ・設営費等の高騰に伴い、令和7年度は出展者による負担金を増額するとともに、ステージ出演者からも出演料を徴収し、何とか収支均衡を維持することができた。
- ・令和8年度も出展料の検討が必要であるとともに、ステージ設置の要否について検討する必要がある。
- ・出展数及び来場者数とも減少傾向にある。
- ・本イベントの風物詩ともいえる演目（「日本のどまんなか・たぬま音頭」、「ヘそどり」、「田沼太鼓」）がなくなった。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☒ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
	「どまんなかフェスタ佐野」は、そもそも産業、福祉及びまちおこし等を目的とした事業であるが、合併後20年を経過し、本市の主要なイベントは、「さの秀郷まつり」、「たぬまふるさとまつり」及び「くずう原人まつり」が三大イベントとして定着しているところである。旧佐野市時代から継続されてきた「三轟山大文字焼き」が令和4年度をもって廃止された例もあるように、「どまんなかフェスタ佐野」についても、旧田沼町におけるまちおこしという観点では、その使命を終えたものと考えられることから、事業の在り方を検討する必要がある。

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	スプリングフラワーフェスティバル開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名		予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課		スプリングフラワーフェスティバル開催支援事業			款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係					項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等		事業期間	目	4	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり				開始年度	H1	実施方法	直営	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり				終了年度		事業分類	支援事業	
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開								
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進								

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野スプリングフラワーフェスティバル実行委員会を設置、同委員会への交付金を支出する。同委員会がイベントを主催する。 【イベント概要】日本有数の規模でかたくりの花が群生する「万葉自然公園かたくりの里」での「かたくりの花まつり」をメインに春の花をテーマにしたスプリングフラワーフェスティバルを開催することにより、本市の美しい自然を市内外に紹介し、誘客を図る。
------	--

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	多くの市民・観光客に佐野の春の花を楽しんでもらう。	（3）目標値		↓選択して下さい	後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		かたくりの里駐車台数	台	値が大きいほど良い	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	1 実行委員会 令和8年1月20日(火)開催 2 佐野スプリングフラワーフェスティバル2026 (1) 期日 令和8年2月下旬～5月31日 ※梅、カタクリ、桜、つつじ、ハーブ等の開花時期 (2) 会場 万葉自然公園かたくりの里 他 (3) 主な取組 ①「かたくりの花まつり」※3/14(土)～3/31(火) ・ケナ奏者Renライブ、佐野東高等学校吹奏楽部及びメガネボーイズによるステージイベント ・キッチンカー出店（土日祝日限定） ・春の花を題材にしたフォトコンテスト開催(Instagram上) ② 観光客受入体制 ・観光ボランティアガイド協会による臨時観光案内所開設 ・佐野市観光協会による駐車料金の徴収 ※普通:500円、マイクロ・中型:1,000円、大型:2,000円	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議・打ち合わせ回数	回	1	1	1	1
		広報・宣伝回数	回	11	10	10	11
		準備回数	回	12	12	12	12
		事業費計	千円	1,900	1,900	1,900	1,900
		一般財源	千円	1,900	1,900	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円			1,900	1,900
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	かたくりの里駐車台数が減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		かたくりの里駐車台数	台	1,361	2,193	1,792	1,755	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			
	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標		目標未設定	
指標全体		効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・かたくりの花の開花期間が年々短くなってきていることに加え、キツネノカミソリによる侵食が進み、株数も減少しているため、キツネノカミソリを駆除するための対策が必要である。 ・当初は、かたくりの花を観光できる場所がなかったことから多くの来場者があったが、近年はそうした場所も増えてきている。 ・城山公園において桜の開花時期にぼんぼりを掲出してきたが、事業効果に鑑み、令和7年度から取りやめた。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	イベントの効果的な周知。 かたくりの群生地環境整備。

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野ラーメンデジタルマーケティング事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業		市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	観光推進課		佐野ラーメンデジタルマーケティング事業		款	7	新規or継続	新規事業
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	R5	実施方法	一部委託
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	栃木県の行ったデジタルデバイスによるラーメン店混雑状況可視化の実証実験を市で引き継ぎ、同内容を実施。（R6年度まで） R7年度からは内容を変更し、SNS等動画配信サービスによるインターネット広告を実施した。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を知ってもらい、来訪してもらう。	(3) 目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市の観光客入込数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000
		広告閲覧による来訪者数	人	値が大きいほど良い	500	1,000	1,200	1,400	1,600

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	利用者が急拡大するSNS等動画配信サービスにおけるインターネット広告を実施することで、さらなる観光誘客の促進を図る。 また、本市の人気観光資源である「佐野らーめん」を入口とし、関心の高い層に効率的に情報を届ける。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		広告配信期間	日				33
		広告閲覧回数	回				165,709
		事業費計	千円	0	0	2,710	3,159
		一般財源	千円			0	0
		特定財源（国・県・他）	千円			2,710	3,159
			（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明	ビッグデータ（人流データ）を活用し、佐野らーめん（佐野市）に興味がある人に対して直接的・効果的にプロモーションを行い観光客の増加を図った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,133	7,401	7,482	効果が上がった	×
		広告閲覧による来訪者数	人	-	-	-	552	効果が上がった	○

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			
	効果が上がった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	未達成	1指標	
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

プロポーザルにより業者を決定し、本市に興味があるターゲット像をある程度絞ることができた。今後はR7年度とは違うコンテンツや異なるターゲットに向けてのPRも検討する余地があると考える。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市観光協会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業 期間	開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市の観光誘客の向上を目指し、観光資源の発掘、観光PR事業を積極的に展開し、また、観光物産会館を中心とした特産商品の開発等の事業展開を積極的に図ることを目的とする佐野市観光協会への補助金交付事業。
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	佐野市をPRすることにより本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市の観光宿泊数	人	値が大きいほど良い	70,000	73,000	75,000	78,000	80,000
		市の観光客入込数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	【市の実績】 観光協会が実施する事業への協力支援 【協会の実績】 観光P R、観光誘客事業、観光事業者等との連携、観光イベント開催等 ※佐野市観光物産会館	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		Webサイトアクセス数	回/日	1,135	1,396	1,383	1,614
		X(Twitter)フォロワー数	人	4,485	4,986	5,316	5,538
		観光イベント開催回数	回	2	4	5	4
		事業費計	千円	4,350	4,350	4,350	4,350
		一般財源	千円	4,350	4,350	4,350	4,350
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	民間目線によるマーケティングマネジメントの導入のほか、新規観光イベントの企画等により、観光入込客数及び宿泊者数ともに増加となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市の観光宿泊数	人	56,943	64,290	63,648	67,239	効果が上がった	×
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	7,481	効果が上がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	2指標
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

社会における価値観やライフスタイルの多様化などにより、観光の形態も団体型から個人型が主流になってきており、多様な価値観やニーズに対応した着地型観光商品を造成することで地域活性化につなげる取組など、それぞれのニーズに合った観光サービスの提供が求められている。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	全国へそのまち協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		全国へそのまち協議会参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H11	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	全国のへそのまちを名乗る市町村により、自治体間の親善と交流、魅力ある地域づくりの推進に資することを目的として設立された全国へそのまち協議会は現在 9 の会員市町村から成る。会員として負担金を支出し、総会、幹事会、イベント等に参加することで参画市町村との交流及び地域の活性化を図る。
------	--

（2）目的

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	加盟市町村間の連携・イベントの開催等により、へそのまちを周知し、日本国内の在住の方々に本市を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市の観光入込客数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000
		市の観光客宿泊数	人	値が大きいほど良い	70,000	73,000	75,000	78,000	80,000
		広域での連携事業数	事業	値が大きいほど良い	18	18	18	19	19

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 負担金支出、総会（書面協議）、構成市町村主催観光物産展への特産品出品。 【協議会の活動】 総会、幹事会、加盟促進、観光物産展等の開催、災害時相互応援協定事業、情報発信	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議開催回数	回	2	2	2	2
		イベント開催回数	回	4	8	8	8
		会議出席回数	回	2	2	2	2
		事業費計	千円	10	20	69	64
		一般財源	千円	10	20	69	64
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果説明	観光入込客数、観光客宿泊数、広域での連携事業数ともに増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市の観光入込客数	千人	6,429	7,134	7,402	7,481	効果が上がった	×
		市の観光客宿泊数	人	56,943	64,290	63,648	67,239	効果が上がった	×
		広域での連携事業数	事業	3	15	8	13	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	達成	3指標	効果が上がった	効果が変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	3指標						
	効果が上がった指標数	3指標						
	効果は変わらない指標数	0指標						
	効果が下がった指標数	0指標						
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標未設定	未達成	3指標			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断						

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

協議会の事業内容を通年同じになってしまっているため、積極的に事業提案をする。 加盟している他自治体の所管部局がすべて総合政策部なので、今後所管部局を検討する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 市町村交流とまちづくりの推進を趣旨とする協議会のため、総合政策部局所管と打診をし、目的（対象・意図）の再設定をする必要がある。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	栃木県アンテナショップ協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課		栃木県アンテナショップ協議会 参画事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			事業 期間	開始年度	H24	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり				終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開							
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	栃木県アンテナショップ協議会会員として、負担金を支出し、会議やイベントに参加し栃木県アンテナショップの内容充実、さらなる充実を図る。なお、栃木県アンテナショップ協議会は県及び県内全市町村で構成され、栃木県の知名度アップ、ブランド価値向上、地域産業振興、誘客促進を図ることを目的に組織されている。
------	---

（2）目的

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	国内に在住する人に本市の魅力を知ってもらい、誘客につなげる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市の観光入込客数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	①負担金の支出 ②運営会議（3回）、総会（2回）、意見交換会 ③イベントの実施(3/1佐野市特集企画)	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議への出席回数	回	7	6	6	6
		事業費計	千円	923	804	756	787
		一般財源	千円	923	804	756	787
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果説明	新たなイベントの開催等により観光入込客数は増加となった。 佐野市特集企画イベントを開催し、佐野市の観光PRを行った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市の観光入込客数	千人	6,429	7,134	7,402	7,481	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	1指標				
	効果が上がった指標数	1指標				
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標達成	達成	未達成	1指標
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

日本の一大観光名所となる東京スカイツリーにアンテナショップを設置することは、佐野市においても誘客促進の大きな効果が見込める。アンテナショップと連携したイベント等開催の検討が必要である。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 アンテナショップと連携したイベント等開催の検討。
---	--------------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	観光地域づくり法人支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	R2	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市において観光庁の観光地域づくり法人（DMO）の考え方にに基づき、新たにDOMという手法により、民間目線でのマーケティングマネジメントを導入し「稼ぐ力」を引き出し、観光地経営を担う観光地域づくりを行う舵取り役になり、観光誘客の推進と地域の活性化を図る、法人の事業の柱である、①観光事業、②コンベンション事業、③物販事業等について、事業を安定的に行えるよう多様な関係者で組織する観光地域づくり協議会を運営する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		旅行消費額	円/人	値が大きいほど良い	11,900	15,000	15,500	16,000	16,500
		市の観光宿泊数	人	値が大きいほど良い	70,000	73,000	75,000	78,000	80,000
		市の観光客入込数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・佐野市観光地域づくり候補法人支援補助金を交付。 ・佐野市観光地域づくり協議会への参画。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		観光地域づくり協議会開催数	回	3	2	2	2
		事業費計	千円	10,021	9,383	17,981	18,663
		一般財源	千円	21	383	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	10,000	9,000	17,981	18,663
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	民間目線によるマーケティングマネジメントの導入のほか、新規観光イベントの企画等により、観光入込客数及び宿泊者数ともに増加となったが、旅行消費額は減少となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		旅行消費額	円/人	12,972	16,105	13,724	14,641	効果が上がった	○
		市の観光宿泊数	人	56,943	64,290	63,648	67,239	効果が上がった	×
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	7,481	効果が上がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	3指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	2指標
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・国内観光客の旅行目的は多様化しており、従来の名所旧跡に加え、市街地、農山村等を回遊し、自ら体験し地域住民と交流する「コト消費」観光が増えている。観光環境は I T 化も加わり急激に変化しており、即応しなければ「取り残された地域」になってしまう。 ・民間目線でのマーケティングマネジメントを導入し「稼ぐ力」を引き出し、観光地経営を担う観光地域づくりを行う舵取り役になり、観光誘客の推進と地域の活性化を図るための組織基盤を構築する必要があり、引き続き支援を継続する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	観光推進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		観光推進事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	3	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H21	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	その他内部事務事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	観光推進基本計画に掲げるとおり、地域経済の活性化と活力にあふれた地域社会の創造を目指し、市を挙げて観光推進を図る。また、計画に沿った事業展開を実施するための調査・研究及び事業の全庁的な進捗管理を行う。
------	--

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	観光客、外国人観光客に本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市の観光客入込数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000
		市の観光客宿泊数	人	値が大きいほど良い	70,000	73,000	75,000	78,000	80,000

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	観光誘客を推進するため、観光案内パンフレットを作製した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		パンフレット作成部数	部				8,000
		事業費計	千円	370	978	220	924
		一般財源	千円	370	978	220	924
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	観光誘客、観光PRを実施し、観光客が増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	7,481	効果が上がった	×
		市の観光客宿泊数	人	56,943	64,290	63,648	67,239	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	2指標
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

現状の紙でのパンフレットは単価が高いため、観光パンフレットのデジタル化の検討も必要であると考える。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☒ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">紙面でのパンフレットも必要であるが、デジタル版も作成することで観光客、本市に興味がある人に観光情報を提供することができる考える。</td></tr></table>	取組説明		紙面でのパンフレットも必要であるが、デジタル版も作成することで観光客、本市に興味がある人に観光情報を提供することができる考える。	
取組説明					
紙面でのパンフレットも必要であるが、デジタル版も作成することで観光客、本市に興味がある人に観光情報を提供することができる考える。					

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	栃木県国際観光推進協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2112	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			事業期間	開始年度	H19	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり				終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開							
	基本事業	2	インバウンド誘客の強化							

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	栃木県国際観光推進協議会に加入し、会費として負担金を支出。会議や研修会に参加し、外国人観光客の受け入れ態勢を整備することで、外国人観光客の増加を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	外国人観光客の情報収集、また佐野市を知ってもらうことで、本市に来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		訪日外国人観光客数	万人	値が大きいほど良い	1,300	1,300	1,400	1,400	1,400
		外国人宿泊数	人	値が大きいほど良い	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	（市の活動）負担金の支出。国際観光情報誌への情報提供。会議、研修会への参加。 （栃木県国際観光推進協議会の活動）訪日外国人観光客誘客の為の海外マスコミ、エージェンツ等の招請、商談会、意見交換会等の開催、情報誌の作成。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議等へ出席回数	回	1	2	2	2
		商談会の開催回数	回	2	1	2	2
		事業費計	千円	0	0	191	191
		一般財源	千円			191	191
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	外国人宿泊者数は増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		訪日外国人観光客数	万人	383	2,507	3,687	4,268	効果が上がった	○
		外国人宿泊数	人	521	963	1,782	2,180	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

県主催の会議等に参加し、インバウンド受入れに対しての環境整備・知識等を学んだ。引き続き協議会活動に積極的に参加し、インバウンド増加に向けた受け入れが可能な環境整備を進めたい。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	訪日ムスリムインバウンド推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-④	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課				訪日ムスリムインバウンド推進	款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係				事業	項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2112	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H27	実施方法	直営	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業	
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開							
	基本事業	2	インバウンド誘客の強化							

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	訪日ムスリムインバウンド地域おこし協力隊員を中心に、プロモーションの実施やセミナー開催による市民理解の向上、受け入れ態勢の推進強化を図り、本市を訪れるムスリムの増加を目的とする。
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	本市のムスリム受け入れ態勢を整え、インバウンドの増加を図り来訪、宿泊してもらう。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市の観光入込客数	千人	値が大きいほど良い	8,800	8,900	9,000	9,500	10,000
		市の外国人宿泊数	人	値が大きいほど良い	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	訪日ムスリムインバウンド地域おこし協力隊員を任用し、地域DMO（佐野市観光協会）等と連携を図りながら、事業者を招請した。 また、英語パンフレット及び観光PR用多言語看板の作成を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		セミナー等の開催日数	回	0	1	3	1
		商談会への出店回数	回	0	3	1	1
		招請事業者数	者	0	0	3	3
		事業費計	千円	304	3,598	4,310	6,323
		一般財源	千円	304	3,584	4,292	6,323
		特定財源（国・県・他）	千円		14	18	
		（うち受益者負担）	千円		0	0	

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	ムスリムインバウンド地域おこし協力隊による活動により、観光入込客数及び外国人宿泊者数ともに増加となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市の観光入込客数	千人	6,430	7,134	7,402	7,481	効果が上がった	×
		市の外国人宿泊数	人	521	963	1,782	2,180	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果			
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成	1指標	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定			
	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

R7年度をもって、地域おこし協力隊の任用が終了した。今後は、業務委託を主軸にインバウンド推進事業を進めたい。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	コンベンション・フィルムコミッション推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	会計科目	会計	一般会計	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課			款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係			項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2113	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H23	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度		事業分類	その他内部事務事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開					
	基本事業	3	コンベンション事業の推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	コンベンション（総会や大会を本市へ誘致すること）の調査研究及びフィルムコミッション（映画やテレビ番組などを本市で撮影するときの支援）事業を実施する。また、フィルムコミッション（映画やテレビ番組などを本市で撮影するときの支援）事業により、本市の魅力を広く発信し観光誘客に繋げるため、地域おこし協力隊員を配置し、事業の推進を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	・コンベンション誘致を図ることにより、本市の交流人口の増大及び宿泊者数の増加を図り、地域経済の活性化につなげる。 ・制作会社に本市の豊富なロケーションとアクセスの良さを知ってもらうことでロケを誘致し、観光誘客を図る。	(3) 目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		コンベンション(スポーツ大会等)誘致件数	件	値が大きいほど良い	8	8	8	8	8
		撮影候補地の提供数（放送件数）	件	値が大きいほど良い	18	20	20	20	20

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【コンベンション】 地域DMOと連携の上、次の事業を実施した。 ・本市でコンベンションを初めて開催する主催者を対象とした助成金の創設 ・コンベンションの促進を図るための市場調査を実施 【フィルムコミッション】 ・佐野フィルムコミッションホームページの管理 ・佐野フィルムコミッションの運営 ・エキストラ募集支援 ・ロケ支援随時実施	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		コンベンションノバリティ配布数	部	—	—	350	100
		ロケ候補地数	件	220	220	220	220
		事業費計	千円	3,649	3,930	2,152	571
		一般財源	千円	3,639	3,914	2,146	571
		特定財源（国・県・他）	千円	10	16	6	0
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	・他の都市と比較した場合、本市におけるコンベンションの誘致環境は厳しい状況にあるため、対前年度比誘致件数は減少した。 ・撮影候補地に関する問合せ件数は60件を超えたものの、提供数(放送件数)は、製作側の事情によるキャンセルもあり、令和6年度を下回った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		コンベンション(スポーツ大会等)誘致件数	件	12	6	3	2	効果が下がった	×
		撮影候補地の提供数（放送件数）	件	15	17	23	17	効果が下がった	×

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成		
	効果が下がった指標数	2指標	未達成		2指標
	指標全体	効果が下がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

コンベンションの誘致件数を更に増加させるためには、誘致機能の強化が図れるよう、地域DMOとの連携を強化するとともに、情報発信や各種会議等の開催に向けた支援方策の検討が必要である。また、撮影候補地の提供数を増加させるためには、本市の認知度を向上させ、ロケの実績を観光誘客に繋げるような情報発信が必要である。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明	・コンベンション開催に係る情報収集を行いながら、開催支援策の情報発信を行う仕組みを地域DMOと連携して構築し、潜在的なニーズの掘り起こしを行う。 ・フィルムコミッションHPの内容を充実させるとともに、観光推進課 SNS を活用して情報周知を図る。
---	------	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	観光ボランティア育成事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	2-③	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般会計	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2114	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H19	実施方法	一部委託
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	人材育成事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	4	おもてなしの心の醸成						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	観光ボランティアガイド養成講座の開催及び市内観光ボランティアガイド団体の支援を行うことにより、観光客をおもてなしの心で迎え入れ、佐野市の観光素材の価値、特徴、歴史的背景等、単に訪れただけでは味わえない情報を提供する観光ガイドを担う人材の育成を図る。 ※市内観光ボランティアガイド団体：佐野観光ボランティアガイド協会
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	観光ボランティアガイドに興味のある方や観光ボランティアガイド協会の会員に、観光案内を行う上で必要な知識及び技術を養うことで、観光客の満足度や再訪意欲を向上させる。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		観光ガイド実施回数	回	値が大きいほど良い	60	60	60	60	60
		観光ボランティアガイド協会会員数	人	値が大きいほど良い	37	38	39	40	40
		観光ボランティアガイド派遣人数（延べ人数）	人	値が大きいほど良い	135	140	145	150	155

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	（市の活動） 観光ボランティアガイド協会の役員会への出席、事務及び研修支援	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		養成講座開催数	回	11	0	11	0
	（佐野観光ボランティアガイド協会の活動） ・臨時観光案内所開設（5回、30日間）、随時観光ガイド（12回）	会議・打合せ回数	回	13	13	13	13
	・総会開催数 1回 ・定例会開催数 6回 ・役員会開催数 6回 ・視察研修回数 1回	事業費計	千円	197	224	197	224
		一般財源	千円	197	224	197	224
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	・全国的に観光需要は回復しているが、旅行形態の変化による影響もあり、ガイド実施機会は微増にとどまった。 ・協会会員の高齢化が進む中ではあるが、令和7年度は会員数が微増に転じた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		観光ガイド実施回数	回	8	18	12	13	効果が上がった	×
		観光ボランティアガイド協会会員数	人	30	34	34	37	効果が上がった	○
		観光ボランティアガイド派遣人数（延べ人数）	人	124	126	118	149	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	3指標	達成	2指標	
	効果は変わらない指標数	0指標	未達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
指標全体		効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・旅行形態の変化による影響もある中、観光ガイド実施回数及びボランティアガイド派遣人数は令和6年度を上回った。 ・ボランティアガイドの更なる利用促進を図るため、旅行会社や観光客向けに観光案内サービスについての周知を充実させる必要がある。 ・会員の高齢化に伴い、会員数が減少しているため、若い世代に向けた養成講座受講生募集についての方法を検討する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	まちの駅設置促進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2114	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H22	実施方法	一部委託
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						
	基本事業	4	おもてなしの心の醸成						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	観光客に観光情報の提供やトイレなどの休憩場所として「まちの駅」を広く市内に設置することで、点在する観光スポットを連携させ回遊ルートの形成を図るとともに、市民の意識におもてなしの心を醸成し、観光客にまた訪れたいと思われる佐野市を市民と共に形成していく。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	事業者（市民）がまちの駅に参画することにより、観光客に対するおもてなしの心を醸成する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		まちの駅数	箇所	値が大きいほど良い	35	35	35	35	35

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	■まちの駅ネットワークさの	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
	1 書面総会	まちの駅通信の発行	回	4	4	4	1
	(1)議決日 令和7年9月19日						
	(2)議事 役員改選、R6事業報告及び収支決算報告、R7 事業計画(案)及び収支予算(案)						
	(3)結果 全会員より書面表決書の提出があり、全会員一 致で原案のとおり承認	事業費計	千円	101	101	101	101
	2 まちの駅通信発行（夏号の計1回）	一般財源	千円	101	101	101	101
	3 意識調査アンケート実施	特定財源（国・県・他）	千円				
	(1) 内容 「まちの駅ネットワークさの」の今後の在り方について	（うち受益者負担）	千円				
(2) 実施時期 令和7年12月19日～令和8年1月9日							

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	・令和7年度はまちの駅の数が減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		まちの駅数	箇所	35	33	29	28	効果が下がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	1指標				
	効果が上がった指標数	0指標				
	効果は変わらない指標数	0指標				1指標
	効果が下がった指標数	1指標				
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が下がった	目標達成	達成	未達成	
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し		目標未設定			

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

- ・会員の高齢化等の要因により、近年退会者が増加傾向にあるため、事業の停滞を来し、会員同士の交流や連携する機会の減少に繋がっている。
- ・一部の駅を除き、利用状況は低調である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

- ☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）
- ☒ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）
- ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討
- ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討
- ☐ その他の検討
- ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

・令和8年度はこのような現状に鑑み、「まちの駅ネットワークさの」の解散又は、意欲のある会員に事務局機能を移管し、会員が主体的に事業運営に関われる体制へ移行する方向で検討する。